

使命目標 指標		参考資料
<b>I 美術を通じた交流を促進する</b>		<b>【集客・交流推進】</b>
① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。		〔広報〕
達成目標	・年間観覧者数 98,000人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間観覧者数（月別推移、年度別推移）</li> <li>・年間来館者数（月別推移、年度別推移）</li> <li>・駐車場利用状況（月別推移、年度別推移）</li> <li>・来館回数（年度別推移） *リピート率</li> <li>・居住地域（年度別推移） *市民率</li> <li>・交通手段（年度別推移）</li> </ul>
実施目標	・広報、パブリシティ活動を通じて、市内外の広い層に美術館の魅力をアピールする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種メディアへの掲載実績</li> <li>・広報会議の概要（広報戦略）</li> <li>・訴求活動の概要（ポスチラ配布、リリース発送の状況）</li> </ul>
② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。		〔市民協働〕
達成目標	・市民ボランティア協働事業への参加者数のべ2,100人（事業ごとに加算、登録者・一般参加者を総合して）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業ごとの開催回数、参加者数の一覧</li> <li>→サボボラ研修</li> <li>所蔵品展ギャラリートーク（参加者数、参加ボランティア数）</li> <li>小学校鑑賞会補助（参加ボランティア数のみ）</li> <li>ワークショップ補助（参加ボランティア数のみ）</li> <li>プロジェクトボランティア会議</li> <li>プロジェクトボランティアイベント（参加者数、参加ボランティア数）</li> </ul>
実施目標	・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア関連事業の概要</li> <li>・（ボランティアの感想・反応）</li> </ul>
<b>II 美術に対する理解と親しみを深める</b>		<b>【社会教育】</b>
③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。		〔展覧会・教育普及〕
達成目標	・企画展の満足度（補正值）81%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各企画展の満足度</li> <li>・所蔵品展の満足度（年度別推移）</li> <li>・谷内六郎展の満足度（年度別推移）</li> </ul>
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間5回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。</li> <li>・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催する。</li> <li>・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。</li> <li>・所蔵図書資料を充実させる。</li> <li>・多くの人気が気軽に利用できるよう、図書室の環境を整える。</li> <li>・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各企画展（児童生徒造形作品展を除く）の概要（ねらい、担当者の感想・反省点）</li> <li>・所蔵品展の概要（同）</li> <li>・谷内六郎展の概要（同）</li> <li>・講演会・アーティストトーク等の実施状況（同）</li> <li>・大人向けワークショップ等の実施状況（同）</li> <li>・図書室の概要（図書新規購入額・点数、寄贈図書の点数）</li> <li>・図書室の利用状況（利用者の月別推移、担当者の感想・反省点）</li> <li>・学芸員による論文、発表等</li> </ul>

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。 [若年層への教育普及]

達成目標	・中学生以下の年間観覧者数 20,000人	・観覧者数の券種別内訳(月別推移、年度別推移) ・子どもを対象とした教育普及事業の参加者数(のべ人数の年度別推移)
実施目標	・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。 ・小学校観賞会を充実させるため学校との連携を強化します。観賞会と連動した教材の開発、出前授業の実施などを教員と協力しながら実施します。	・児童生徒造形作品展の概要(担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・小学校美術館鑑賞会の概要(実施内容、学校数、児童数、対応職員・ボランティア数、担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・中学生のための美術鑑賞教室の概要(実施内容、担当者の感想・反省点)(生徒の感想) ・子ども向けワークショップ等の実施状況 ・研修等の受入れ状況

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。 [収集管理]

実施目標	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。 ・所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。	・作品収集の状況 ・保管環境の状況 ・所蔵作品の修復状況 ・所蔵作品の貸出状況(件数、点数)
------	---	---

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する 【運営・管理】

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。 [メンテナンス・来館者サービス]

達成目標	・館内アメニティ満足度91%以上 ・スタッフ対応の満足度80%以上	・アメニティ関連各項目の満足度(年度別推移) →全般・館内印象・館内環境・休憩所・トイレ・清掃 ・スタッフ対応の満足度(年度別推移)
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・受託事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。	・メンテナンスの概要(屋外含む美観、安全性の確保) ・受付・展示監視員研修の状況 ・運営事業者連絡会議の概要(議題等) ・繁忙期の対策(ケータリング誘致など)のまとめ ・レストランアンケート結果 ・レストランコラボメニューの概要

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。		[バリアフリー]
達成目標	・福祉関連事業への参加者数のべ280人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業ごとの開催回数、参加人数</li> <li>→福祉関連講演会</li> <li>福祉関連ワークショップ</li> <li>福祉関連パフォーマンス</li> <li>障害児を対象としたワークショップ</li> <li>託児サービス</li> </ul>
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう(環境づくりの)ための各種事業を行う。</li> <li>・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉関連講演会の概要</li> <li>福祉関連ワークショップの概要</li> <li>福祉関連パフォーマンスの概要</li> <li>・障害児を対象としたワークショップの概要</li> <li>託児サービスの概要</li> <li>・養護学校等の受け入れ状況</li> <li>・鑑賞補助(対話鑑賞)の実施</li> </ul>
⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する		[経営的視点]
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数、公用車走行距離を前年度以下とします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電力等使用状況一覧</li> </ul>
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員全てが費用対効果を常に意識し、経費削減に向けた取り組みを行う。</li> <li>・美術館運営に係る経費の収支を改善するため、新たな歳入を見出す。</li> </ul>	